

2025
6.15

NEWS

CIT

千葉工業大学 入試広報部

〒275-0016
千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号
TEL 047(478)0222
FAX 047(478)3344

[NO.696]



左から瀬戸熊理事長、ワンチュク国王陛下、ジョブズ氏、ホフマン氏、伊藤学長

<https://chibatech.jp/>

ブータン王国ワンチュク国王陛下、 ロリーン ジョブズ氏、リード ホフマン氏に 名誉博士の称号を贈呈

本学は、ブータン王国のジグミ・ケサル・ナムゲル・ワンチュク国王陛下、ロリーン・パウエル・ジョブズ氏、リード・ギャレット・ホフマン氏に、千葉工業大学名誉博士(※次頁)の称号を贈呈しました。

ワンチュク国王陛下は即位以来、「国民総幸福量(GNH)」の理念に基づき、教育改革や若者支援に力を注がれ、文化・環境の保全にも尽力されてきました。ブータンの未来像を示す先進的都市構想「グレブ・マインドフルネス・シティ(GMC)」の発表など、社会全体の幸福を見据えたリーダーシップが高く評価されています。

ジョブズ氏は、教育、環境、移民、民主主義など、幅広い分野で社会課題の解決に取り組んできた実業家・社会起業家です。特に、若者の学びを支援する活動や、持続可能な社会づくりへの貢献は、未来を担う人材育成を重視する本学の理念と響き合うものです。

ホフマン氏は、LinkedInの共同創設者としてキャリア支援とネットワーク構築のあり方を刷新したほか、近年ではAIやテクノロジー分野の先導者としても活躍されています。著書を通じて、起業や社会変革への実践的な知見を広く発信されています。

それぞれの分野で世界に影響を与え続ける三氏の活動は、本学のビジョンとも深く重なり合うものであり、今回の名誉博士称号の贈呈に至りました。

P2 名誉博士称号贈呈式で本学のビジョンと深く重なる三氏の活動を称える／文部科学省「私立大学の在り方に関する有識者会議」委員が来学 本学の高度な研究と教育の現場を視察／生成AIを活用した「AI大学講師」を国内初導入 個別最適な学びを支える教育支援ツールとして、2025年前期より実証実験を開始

P3 中山昇准教授が「2025年度 日本塑性加工学会教育賞(JSTP Education Award)」を受賞／中川泰宏助教が「令和6年度 関東工学教育協会賞(業績賞)」を受賞／令和8年度入試説明会を開催／「AIの説明可能性」への新提案 本学とZOZO研究所の共同研究が国際会議IJCAI 2025に採択

P4 令和7年度 同窓会総会開催 会長には岩舘和巳氏が重任／コラム

本学のビジョンと深く重なる3氏の活動を称える

名誉博士称号贈呈式は、5月27日に京都・西芳寺で執り行われました。式には、瀬戸熊修理事長、伊藤穰一学長、本学関係者、受贈者関係者など約20名が列席。伊藤学長より名誉博士記が授与され、各受贈者の功績を讃えたのち、瀬戸熊理事長からは記念品の贈呈が行われました。和やかで厳かな空気の中、三氏より感謝の言葉が述べられ式は終了しました。

三氏のコメントについては、本学webサイトに全文掲載しています。



ワンチュク国王陛下コメント[一部抜粋]

私たちには、主体性、目的意識、人類への奉仕といった共通点があります。制度の変化、技術革新、環境危機という課題に対し、人間性への信念と革新性、そして回復力が必要だと感じています。この名誉は、私にとって生涯忘れられないものです。

ロリーン・パウエル・ジョブズ氏コメント[一部抜粋]

千葉工業大学は、知識を進めるだけでなく、その意義をこの時代に照らして問い直している大学です。未来は、野心とともに優しさをもって築くべきです。こうした問いに向き合う大学からの表彰に、感謝と希望の気持ちでいっぱいです。

リード・ギャレット・ホフマン氏コメント[一部抜粋]

この西芳寺は、東西をつなぎ、過去と未来を結ぶ“橋”のような場所です。今、私たちに必要なのは、希望を持ち続け、人間性と自然への思いやりを忘れずにいること。名誉をいただいたことに、心から感謝します。

千葉工業大学は令和6年2月に名誉博士の称号を授与する制度を制定しました。これは、学術文化や社会への功績が特に顕著であると認められ、今後、本学の教育研究への寄与が期待される方、また、今まで本学の教育研究に寄与した功績が顕著であると認められる方に贈られるものです。

文部科学省「私立大学の在り方に関する有識者会議」委員が来学 本学の高度な研究と教育の現場を視察

急速に進む少子化を背景に、文部科学省が私立大学の将来像を検討するため設置した「私立大学の在り方に関する有識者会議」の委員が、6月29日、本学を視察に訪れました。大学の果たすべき役割や今後の在り方について議論を進める中、教育・研究現場の取り組みを直接確認し、学生の声を聴くことを目的としたものです。

1号館20階にて、瀬戸熊理事長の挨拶を皮切りに、私立大学としての本学の教育・研究の特色や社会的使命、経営の安定化に向けた取り組みについて説明が行われました。

続いて場所を移し、高度技術者育成プログラムラボにて、惑星探査に関する研究内容と、

学生が関わる小型人工衛星の開発プロジェクトなどについて紹介しました。

また、未来ロボット技術研究センターラボでは、人工知能(AI)を駆使した自律移動ロボットや災害救助ロボット、介護支援ロボットなど、最先端のロボット技術について説明を行い、実演も交えてその成果を紹介しました。研究開発の社会実装に向けた取り組みについても、活発な質疑が交わされました。

視察の最後には、学内各所で研究に励む学生との意見交換会が設けられました。有識者からの「何が学習意欲につながったか」との問いに対し、学生からは「研究活動を通じて企業や社会と接点を持つことで視野が広がった」

「研究の経験が自信となり、就職活動にも活かせると実感している」といった前向きな声が寄せられました。こうした生の声は、委員らにも深い印象を与えた様子でした。



学生との意見交換会

生成AIを活用した「AI大学講師」を国内初導入 個別最適な学びを支える教育支援ツールとして、2025年前期より実証実験を開始

本学では、5月12日、生成AIとデジタル証明書「Verifiable Credential (VC)」を活用し、学生一人ひとりの学びを支援する「AI大学講師」を国内で初めて導入したことを発表しました。本取り組みは、2025年度前期に実証実験として一部授業で運用され、教育効果の検証が行われます。

この「AI大学講師」は、生成AIの代表的なAIツールであるOpen AI「ChatGPT」のカスタマイズ機能「GPTs」と、VCの技術を組み合わせたものです。学生が授業内で提出した課題や発言、質問などの学習履歴がデジ

タルデータとして記録され、その情報に基づき、AIが学生に応じた最適な学習指示や学習支援を行います。VCの導入により、AIが使用する学習履歴の信頼性を確保し、誤情報の抑制を図っています。また、授業終了時には、学んだ内容をVCとして発行することで、学生はそれを就職活動などに活用することも可能です。

本学ではこの取り組みを、オンライン授業「web3・AI概論」にて実施。ブロックチェーン技術や生成AIの基礎、ノーコードツールによるサービス開発などを学ぶこの授業におい

て、AI大学講師の導入が学習理解や満足度にどのような影響を与えるかを検証します。

本プロジェクトは、人材開発・採用支援等を行う株式会社DOU(東京都渋谷区)の協力により開発されました。

伊藤穰一学長は「AI大学講師は、単なる自動応答ツールではなく、学生一人ひとりの思考プロセスを理解し、個別最適な学びを促す“教育パートナー”です。AIはあくまで支援ツールであり、教員がより創造的な教育活動に専念できる環境を整えることが、本プロジェクトの真の目的です」と話しています。

中山 昇 准教授が「2025年度 日本塑性加工学会 教育賞 (JSTP Education Award)」を受賞

宇宙・半導体工学科の中山昇准教授が、2025年度 日本塑性加工学会 教育賞 (JSTP Education Award) を受賞しました。

本賞は、教育現場、または公的研究・試験機関を含む「生産技術・ものづくり」に関連した分野において、人材育成等に多大な功績のあった個人またはグループを対象に授与されるもの。今回の受賞は、中山准教授の教育者としての姿勢と実践の成果が顕著な評価を受けたものです。

授賞式は、5月15日(木)にアクリエひめじ(兵庫県姫路市)にて開催されました。中山准教授は、SUWA小型ロケットプロジェクトをはじめとしたロケットや超小型人工衛星の開発活動を通して、長野県諏訪地域の社会人を対象とした実践的教育に継続的に取り組み、地域活性化に貢献してきました。こうした地域社会に根差した教育実践が高く評価され、今回の受賞となりました。

中山准教授は「地域貢献を目指してきた社会人教育を評価して頂いたことは、大変嬉しいと思います。今後も、千葉工業大学の学生や社会人とともにハイブリッドロケットや人工衛星の開発に取り組み、高度技術者を育成していきたいと考えています。また、これまでの成果を活かし、小学校や高校を対象にロケットを題材としたワークショップなども実施し、未来の技術者の育成にも尽力してまいります」と話しています。

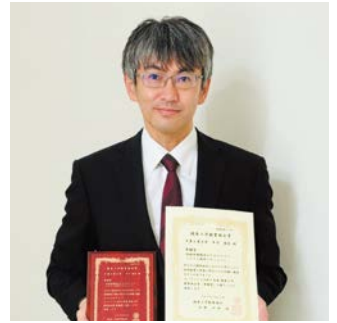


中川 泰宏 助教が「令和6年度 関東工学教育協会賞(業績賞)」を受賞

本学、高度応用情報科学科の中川泰宏助教が、令和6年度 関東工学教育協会賞(業績賞)を受賞しました。同賞は、関東地区における工学・技術教育の発展に顕著な功績を挙げた個人または団体に対して、関東工学教育協会(会長:山田純氏)より授与されるものです。同協会は、戦後の工業復興を背景に昭和27年に設立され、工学教育の普及・推進、教育機関と産業界との連携、研究集会の開催などを通じて、工学高等教育の充実を図っています。

表彰式は、5月22日、TKP田町カンファレンスセンター(東京都港区)にて執り行われました。中川助教は、学部教養特別科目「ソーシャルアクティブラーニング」を通じて、学生による地域課題解決型ICTシステムの提案と実証活動を推進。地方自治体や産官学連携のもと、DX推進を支援するプロトタイプ開発を授業の枠を超えて展開することで、学生の問題解決能力と主体性を育成してきました。こうした教育的実践と地域への貢献が高く評価され、今回の受賞に至りました。

中川助教は、「学生提案型の地域DX活動が、産官学連携によって実用化につながり、学生が大きく成長した点を評価いただけたことを非常に嬉しく思います。今後も、現場の声に応えたいという学生の想いを育て、社会に直結する学びの機会を提供できるよう努めてまいります」と話しています。



令和8年度 入試説明会を開催

本学では、高校教員を対象とした令和7年度入試説明会を、5月30日に東京スカイツリータウンキャンパス、6月3日に津田沼キャンパスにて開催しました。両日合わせて161校から163名の進路指導担当の先生方が参加しました。

説明会の冒頭では、入学試験委員会委員長の大川茂樹教授が登場し、本学の近年の取り組みやTOPICSを紹介しました。具体的には、外部機関からの評価、学部横断型プロジェクトの展開状況、4月に開設された「宇宙・半導体工学科」への改組、本学における退学・留年抑制への取り組みなどについて説明しました。続いて、「在学生から見た千葉工大」と題し、デザイン科学科3年の末木愛理さんがプレゼンテーションを行いました。入学のきっかけや大学での学び、学生生活のリアルな一端を語る内容に、参加者からは「工業大学のイメージを一新するようなプレゼン内容でした」「飾りのない発表内容に好感がもてた」「パワポの資料が見やすくきれい」など、好意的な声が多数寄せられました。

最後に、日下部聡入試広報部長が昨年度の入試結果の振り返りを、出水雄祐グループ長が令和8年度入学者選抜に関する概要説明を行いました。総合型選抜、学校推薦型選抜、大学独自入試、共通テスト利用入試それぞれの特徴や変更点、受験生支援に関する取り組みなどについて具体的に紹介しました。

本説明会は、大学の実情を伝えると同時に、進路指導現場との信頼構築にも資する重要な場となっており、今後も高校と連携しながら、同様の機会の提供を行っていく予定です。



「AIの説明可能性」への新提案 本学とZOZO研究所の共同研究が国際会議 IJCAI 2025に採択

千葉工業大学 人工知能・ソフトウェア技術研究センター(STAIR Lab)と株式会社ZOZO NEXTの研究機関「ZOZO研究所」による共同研究の成果が、人工知能分野のトップ国際会議「IJCAI (International Joint Conference on Artificial Intelligence) 2025」において採択されました。採択された論文のタイトルは「Explaining Black-box Model Predictions via Two-level Nested Feature Attributions with Consistency Property (邦題: 二重階層の特徴帰属の一貫性を考慮したブラックボックスモデル予測の説明手法)」であり、画像やテキストなどの集合データを対象としたAIの予測に対し、高い一貫性をもって説明可能な新手法「C2FA (Consistent Two-level Feature Attribution)」を提案したものです。

本研究では、従来別々に扱われてきた高次 (HiFAs)・低次 (LoFAs) 特徴帰属を同時に推定し、両者の整合性を保つことを実現。従来法よりも効率的かつ高精度な推定を可能にし、視覚的にも明瞭な説明を得られることを実証しました。研究は、本学の吉川友也上席研究員(STAIR Lab)、メルボルン大学の木村正成氏、ZOZO研究所の清水良太郎氏、斎藤侑輝氏による共同チームにより実施されました。

今後は画像認識のみならず、自然言語処理やファッションデータ解析といった多様な分野への応用も期待されており、より透明性・信頼性の高いAIシステムの発展への貢献が見込まれます。

令和7年度 同窓会総会開催、会長には岩館和巳氏が重任



集まった同窓生へ、エールを送る元応援団長

令和7年度の同窓会通常総会が、5月31日(土)13時30分より、津田沼校舎4号館431教室にて開催されました。今回は、通常総会議案および令和7年度から9年度にかけての会長ならびに役員・評議員の改選に関する承認が議題となりました。

議長より、会則に基づき開催要件を満たしている旨の発言があり、議事次第に沿って議案の審議および承認が進められました。同窓会会長選挙の結果として、新会長には岩館和巳氏

(電子工学科S5卒)が重任されることが報告され、副会長として山下信夫氏(土木工学科S52卒)、前田修作氏(金属工学科S57卒)、松崎元氏(工業デザイン学科H8卒)が承認されました。

新会長のご挨拶では、今春の卒業生数を加えると、同窓生数は10万1063人と10万人を超える記念の年になり、同窓会として千葉工業大学の発展に寄与するため、「がんばれ千葉工大」をスローガンに掲げ、今後3年間の活動計画が示されました。具体的には、デジタル環境を整備し、より多くの卒業生が同窓会の活動に賛同し、卒業生ネットワークを通じて母校の発展に寄与できる体制を整えることを目指しているとのこと。特に若年層の参加を促し、実益のある活動によって活性化を図り、卒業生・在学生・大学の支援集団(応援団)としての機能を果たしていきたいとの意向が述べられました。同窓生の皆さまには、今後ともご支援・ご協力をお願い申し上げます。

総会終了後には懇親会が開催され、瀬戸熊修理事長も参加し、各支部長に囲まれて和やかな雰囲気の中、懇談がスタートしました。全国から支部長が集う貴重な機会を活かし、支部活動に関する情報や意見の交換が行われ、会の締めくくりには、元応援団長の鈴木海渡さん(生命環境科学学科H28卒)のリードで全員が校歌を斉唱し、力強いエールを送り合い、世代を超えた同窓の絆があらためて感じられるひとときとなりました。

同窓会



私の所属する英語教室では、連休明けの5月7日と8日の2日間、PPA学生教育指導援助費を活用し、教学センター、グローバルラウンジ(GL)との共催、〈Early Summer Café〉というイベントを実施した。学食前のテントに行き、GLの先生に英語で注文すると、無料で缶ジュースがもらえる、というものである。

授業以外でも英語にふれる機会を増やしてほしい、と発案したイベントだったが、当日の気温が高めだったこともあり、想定をはるかに上回る人数の学生たちが参加してくれた。配った缶ジュースの数は、合計なんと600本以上。つまり、2日間でのべ600人以上の学生たちが、ネイティブスピーカー相手に英語を喋ったということになる。これは、なかなか凄いことではないだろうか。

イベント終了後に先生たちに話を聞いたところ、「緊張して“please”を言い忘れる学生はいたが、“Thank you”を言わずに帰る学生は誰もいなかった」とのこと。そうそう、うちの学生たちはいい子が多いのよ!と、ちょっと嬉しくなっていました。

教育センター 浜野 志保

四季雑感



6月20日ごろ、暦は夏至を迎えます。一年で最も太陽高度が高くなる時期であり、日照時間も最も長くなります。南北に長い日本列島は、緯度によっておおよそ24度から45度に位置し、地域によって太陽の見え方や空の表情は大きく異なります。赤道に近い緯度の低い地域では、太陽は高く昇り、大きな弧を描いて空を移動します。一方、北へ行くほど太陽の軌道は低くなり、日の出や日の入りの角度も浅く、緩やかな勾配となります。そのため、日の出前の「曙」や日没後の「薄暮」の時間が長く続くのも、緯度の高い地域の特徴といえるでしょう。関東においても夏至のころ、早朝から空がゆっくりと明るくなり、夜には静かに闇へと移ろっていく様子は、自然のダイナミズムを映し出し、季節の変化を実感するひとときです。

地球と太陽の関係に目を向け、自然のリズムに静かに耳を澄ませてみるのも、四季のある日本に生きる私たちならではの楽しみ方といえるのではないのでしょうか。

建築学科 金子 尚志

編集だより



ある日、後輩から「実家からの野菜、お裾分けします」という嬉しい申し出があったのですが、後日、届いたのは実は「野菜の苗」。「すみません、苗でした…」と恐縮する後輩をよそに、我が家は狭い庭も併せ、玄関先や車庫の脇など、あらゆる隙間に花や緑、ハーブ等の鉢植えが並ぶ程の園芸好き。野菜の苗は嬉しい贈り物です。

しかし、夏前の暑さに水やりが追い付かず、梅雨入り前に少し枯らしてしまい…涙。それでも元気なミニトマトを毎日収穫するのが、最近の楽しみの一つになっています。

そんな猛暑の中、金沢の「もてなしドーム」で進学相談会に参加しました。屋内でも、外でもない「もやん」としたスペースで、笑顔で大学の説明をするのは結構しびれましたが、来場する皆さんにとっても暑さは同じ!早口で熱弁する私にお付き合いただき、受験生、親御さんには感謝、感謝です。

まだまだ、暑さが続きそうですので、皆様、体調にはくれぐれもお気をつけください。

入試広報部 大橋 慶子